とある戦士の風林火山

ＹＳ－８６

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある戦士の風林火山

【Ｎコード】
Ｎ１２２９Ｙ

【作者名】
ＹＳ－８６

【あらすじ】
四千年の長きに渡り、繰り返された聖剣戦争が遂に終結した。小次郎は十本の聖剣を総て消滅させる決意をし、それを実行する。その時、起こった衝撃波で彼は世界から消滅してしまう。次に彼が目を覚ました時、目の前に広がっていたのは、科学の街・学園都市だった！新たなる世界を舞台に風の戦士の新たなる闘いが、今、始まる！！

プロローグ（前書き）

はじめまして！ＹＳ－８６と申します。此度は私めのような駄文にお付き合い頂き誠にありがとうございます。さて、この作品は二次創作であり、クロスオーバー作品であります。そういうものが苦手な方は問答無用でブラウザバックでお戻り頂いて構いません。尚この作品のメイン主人公の小次郎君の服装に若干の変化があります。そのことについては平にご了承くださると助かります。では、プロローグ始まります。

プロローグ

天は燃え、地はひび割れ
、その天と地交わるところ、果てしなき遠い彼方
ーこの大いなる聖地で、
四千年間闘いは続けられていた。しかし、それも今終わろうとして
いた。
ー既に八人もの戦士が己の聖剣のみを残して…闘いの果てに消えて
いた。
何もない空間から１人の
少年が突如現れた。赤いシャツの上に学ランを羽織った活発そうな
少年である。
「か…華悪崇（カオス）…お前もこの戦場に舞い戻ったはずだ！出てこい華悪
崇よ！
！」
少年が叫ぶと紅い衣を纏った男が姿を現した。
「小次郎…」
「華悪崇！」
「わ…私たちはどうやら
…同じものを見てきたらしいな…」
「死界の入口ってやつか…」「し…しかし何故急にこの戦場へ戻っ
たのか……？」
「風林火山が時の流れを
逆に変えたのよ！」
少年のその言葉に男は驚愕した。
「な…なにい、まさか…」
「あのまま　逝っちまったら、また、いつの日か
俺達は闘わなければならねえ運命だ。そんなこた
ァもう、ごめんだからな！」

叫んだ後、少年ー小次郎は飛び上がり、攻撃態勢へと移った。
「聖剣戦争をこれで終わりにする為に華悪崇、死界には、おめえ1人で逝ってもらうぜーーーー
ッ！！」
二つの聖剣がぶつかり合う。それから何合か打ち合う二人。やがて華悪崇が口を開く。
「バ…バカな。時の流れを変えてまで決着をつけようなどと…こ…小次郎
お前は自分のしでかしたことが分かっているのか…」
「往生際が悪いぜ華悪崇。おとなしく死界へと…」
小次郎が聖剣・風林火山を振り上げ華悪崇の聖剣へとおもいっきり叩きつける。
「消えちまえーー！！」
その時、華悪崇の聖剣・鳳凰天舞に大きく亀裂が走った。当然彼は驚愕する。
「な…なにい！こ…こんなバカな…鳳凰天舞に亀裂が入ったーーーッ！！」
その隙を小次郎が逃すはずもなく続けて聖剣を叩きつける。
「これで聖剣戦争が終わる！！」
「くっ！」
受け止める華悪崇。しかし、彼の聖剣には次々と新しい亀裂が走っていく。そのまま鍔迫り合いに持ち込むも最早決着がつくのも時間の問題であった。
「う…うう…よ…よせ…
よせ小次郎。こ…これ以上流れを…時の流れを変えるな……」
しかしその忠告も無視して、小次郎は次々と風林火山を鳳凰天舞へ叩きつけていく。
「聖剣戦争は今までずっと決着のつかないままきたのだ…いわばバランス・オブ・パワー…カオスとコスモの力の均衡で歴史は流れてきたのだ！！」

尚も風林火山を叩きつける小次郎。その目には決意の炎が宿っていた。
「何故、決着が付かなかったのか…何故、四千年も続いたのか…それはどちらか一方が勝つことによって何かが狂うのではないのか！！」
その言葉の終わりと共に
小次郎は一旦距離をとる。
「何を今更つべこべ言ってるんだ華悪崇。これで、もうもう二度とオレ達は闘わずに済むんだぜ。お前が負けることによってな！」
そして、青眼に構える小次郎。
「そうよ、これで終わるのよ…気の遠くなるほど長かったこの聖剣戦争もやっと終わるんだ…」
その姿に華悪崇は恐怖する。
「あ…ああ…風林火山の輝きが…大きさがまるで違う！や…やめろ小次郎、み…未来の…」
最後の突進をする小次郎。その姿に、その後に待つ運命に恐怖する華悪崇。
「歴史を変えるなーーーーッ！！」
叫びと共に轟音と閃光が走る。
次の瞬間に、空を舞う聖剣・鳳凰天舞。それが地面に突き刺さった時、刃先を残して崩壊していった。暫く背中合わせに対峙していた二人だったが、やがて華悪崇がその重い口を開いた。
「こ…小次郎…この闘いは、た…確かにお前の勝ちかもしれん…そ…そして、もう二度と聖剣を巡る闘いがおこることはもうないだろう…」
そう言った後、華悪崇は小次郎の方へ向き直った。
「だ…だが、お前は…お前はその手で歴史を変えてしまった………そ…それが、いったいどんなに恐ろしいことになるのかわかっているのか…」
小次郎にそう問いかけながら、華悪崇の体は光の粒子となって消滅

していく…。消滅しながらも尚、華悪崇は小次郎に話しかける。
「歴史を作るのは神だ…。そ…それを人間であるお前が変えてしまったのだ…。き…きっと…きっとお前もそのまま無事には済むまい…。お前も消される。
神の怒りによってな…」
その言葉と共に、華悪崇は完全に消滅した。そして、それから数秒後、小次郎はゆっくりと後ろを振り向いた。そこには、この闘いで散っていった九人の戦士の聖剣がまるで墓標のように地面に突きたった光景だった。
「神か！もし、そんなものが本当に存在するなら見ていたはずだな」
小次郎は剣の墓標を見ながら静かに呟いた。
「聖剣戦争は終わった！これで四千年続いた闘いも二度と繰り返すこともないはずだ！！」
小次郎は呟きながらも静かに聖剣ー剛刀・風林火山を振り上げる。
「そして、主人を失い戦場に残った十本の…これら総ての聖剣も最早無用のもの…」
風林火山を握る手の力を更に強める。
「な…何が大地の守りだ。こんなものが…こんなものがあるから闘いが生まれ、闘いが絶えることがなかったのだ…」
小次郎は今まで自分が見てきた闘いとこれまで人類が歩んできた闘いの歴史を思い浮かべる。そして、遂にある決断を下す。それはー
「残念だが神よ！あんたの創り出した聖剣は消える！！今、この場でな！！」
自身の決意を叫びながら、小次郎は勢いよく風林火山（相棒）を振り下ろした。振り下ろされた剣から光の衝撃波が迸り、九本の聖剣を飲み込んだ。そして、衝撃波に飲み込まれた聖剣は一つ残らず崩壊・消滅していく。それは小次郎も例外ではなかった。
（き…消える…総てが…）
小次郎は光の中静かに思う。
（総てが白い光の中に飲み込まれ…や…やがて一切のものが無にな

えもか…）

るのか…。人も地も星も…。そ…そして、いずれは…この大宇宙さ

その思考を最後に小次郎は意識を失った。

ーそんな意識を失った小次郎に語りかける存在が在った。

《小次郎…。小次郎よ…

四千年もの年月、神の正統たる戦士であった小次郎よ…。遂に別離（わかれ）の時がきたようです…。貴方達コスモの戦士は常に聖剣を守り通し、そして、貴方は遂に十本の聖剣を神のもとへと帰してくれました…。これで聖剣戦争もやっと終焉を迎えることができたのです…。神も、もう貴方達を輪廻によって縛ったりすることはありません…。さあ

　これからは貴方達の求めるところへ…自分の一番望むところへお帰りなさい…。四千年もの間ありがとう…。さようなら小次郎…。

さようならコスモの戦士達…》

その言葉が終わると小次郎の身体は黄金の光に包み込まれた。光が治まった時、小次郎の姿はどこにもなかった。この世界から完全に消滅したのである…。

プロローグ（後書き）

次回、遂にとある世界にトリップします。小次郎の運命やいかに！？

PDF小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1229y/

とある戦士の風林火山

2011年11月1日16時05分発行